

岩切章太郎賞を受賞

川越っぱり、川越ってすごい！

表通り裏通り

五月二十九日、川越城本丸御殿大広間で、第十九回岩切章太郎賞贈呈式が行われました。当日は、津村重光宮崎市長をはじめ、放送作家の永六輔さんや作曲家の服部克久さん・宮崎市芸術文化連盟会長の渡辺綱織さんたちが、川越を訪れました。



本丸御殿で行われた贈呈式に出席した皆さん



津村市長から賞状を受け取る舟橋市長

同賞は贈呈式に訪れた、選考委員長の水永さんと選考委員の服部さん・渡辺さん、シャンソン歌手の石井好子さん・野球解説者の川上哲治さん・スイミングクラブ代表の木原光知子さん・歌人の依万智さん・(財)みやざき観光コンベンション協会顧問の塩見一郎さんの八人で審議され、全国百九十六の候補の中から満場一致で川越市が



本丸御殿を訪れた永さん

選ばれました。受賞理由としては、「多くの寺社や史跡から

岩切章太郎賞とは

観光宮崎の基礎を築いた、岩切章太郎さんの観光哲学である「自然の美」「人工の美」「人情の美」を継承していこうと、昭和63年宮崎市で創設されました。岩切さんは、昭和30年代から40年代にかけて「新婚旅行のメッカ・宮崎」のブームを巻き起こし、日南海岸にフェニックスを植栽するなど、観光地としての宮崎をつくり上げました。この賞は、観光振興や自然保護などで功績のある全国の個人や団体を表彰するものです。自治体では、過去に小樽市・長浜市・遠野市などが受賞しました。



一番街の石畳の上を歩く服部さん(右)

なる歴史的・文化的遺産や、川越まつり・時の鐘・菓子屋横丁などの観光資源があること。加えて、地元の家や市民が一体となった町並み保存を中心としたまちづくり運動により、現在の魅力ある小江戸川越ならではの町並みを形成するように至った点」が評価されました。

永さんは川越について、「江戸の風情から明治・大正・昭和をごく普通に受け継いでいるこの街は、その平凡さに魅力があります。また、小江戸の小の字は小粋の小を大事にしてもらいたいですね」。服部さんは「川越市は、古き日本を残した、懐かしさを感じさせてくれる場所です。特に時の鐘の音色は、暮らす人々にいつも優しく時を告げ、人々はその音をいつまでも愛し続けるでしょう」と評価しました。

今までの取り組みが、各界で活躍する皆さんから評価された川越。これからも観光客一千万人を目指し、市民・事業所の皆さんといっしょに、魅力あるまちづくりを進めていきます。

まちのできごと
川越市の面積は109.16km²

109パレット

いっぱい摘めたよ！ レンゲの花

4月29日、農業ふれあいセンターで「川越れんげまつり2007」が行われ、約18,000人の皆さんが訪れました。初夏ならではの日ざしの中、レンゲの花を摘んでいる姿や親子で髪飾りを作る姿を見かけました。中にはカエルを捕まえている男の子も……。思い思いに春の1日を満喫していました。また、苗木・牛乳・米の無料配布も行われ、人気を集めていました。



レンゲ畑で花摘みを楽しむ子どもたち

小さな画伯たちの美術館

あいアイ美術館（郭町2丁目）が5月5日にオープンしました。同美術館は、自立支援を目的に知的障害者の皆さんが描いた作品を展示しています。作品は同館の内外に展示され、2か月ごとに入れ替わります。「作品を通じて、みんなの才能はすごいということを知ってもらいたいですね」と同館長の粟田千恵子さん。入場は無料、毎週水曜日が休館日です。



熱心に作品を見る、来場者の皆さん



約15メートルもあるテープカット

揺れるギターの音色

ビエント・デ・マリオ主催によるクラシックギターの無料体験が、5月11日に大東公民館で行われました。参加した皆さんは、ギターの構え方を教わったり、実際にギターを触って音を出したりしました。また、主催者の皆さんによる演奏もありました。参加した山崎和江さん（79歳・古谷本郷）は、「ギターの音色はとても美しく、主催者の皆さんの雰囲気よかったので、また参加してみたいですね」と話していました。



演奏するビエント・デ・マリオの皆さんと、参加者



蔵造りの町並みの前で

「川越は江戸時代だけでなく、平安・鎌倉時代にもいろいろな出来事があり、とても歴史があるということを、皆さんに伝えていきたいと思っています」と篠さんは話していました。

「川越は江戸時代だけでなく、平安・鎌倉時代にもいろいろな出来事があり、とても歴史があるということを、皆さんに伝えていきたいと思っています」と篠さんは話していました。

篠綾子さん（35歳）

小江戸川越観光親

善大使の篠さんは、

河越太郎重頼の娘を

題材とした「義経と

郷姫」の著者です。

大学で古典文学を専攻し、平安時代に興味を持って歴史小説を書き始めました。現在までに、歴史小説を三作品出版しています。

郷姫に関心を持ったのは、同じ埼玉の出身であることに加え、義経の正妻として奥州まで赴き、

最期を共にしているにもかかわらず、世に知られていないのを残念に思ったから。この小説のために

「河越館跡」など何度か川越を訪れ、現地の雰囲気を感じて、約一年ほどで書き上げました。

今は、在原業平について書こうと構想を練っています。業平は平安時代に、川越にあったとい

われている「三芳野の地」を訪れている歌人です。

「川越は江戸時代だけでなく、平安・鎌倉時代

にもいろいろな出来

事があり、とても歴

史があるということ

を、皆さんに伝えて

いきたいと思いま

す」と篠さんは話し

かわごえ
越
び
と
36



昨年「京姫810年祭」で京姫（郷姫）を演じた篠さん（左）